「桜の樹」ニュースレター　vol 9

岡倉天心記念　がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」　2022.3

河津桜

わたしにとっての「がんカフェ」　田中智子

わたしは３年前乳がんになった時に、初めてお友達のお母さんにこのがんカフェを紹介してもらいました。はじめは目的もわからずにいたので、何の集まりだろうと疑ったりしてました。でも、樋野先生の本を紹介して頂き読んでから、がらっとカフェへの印象がかわったのです。何故か、本に書いてある色んな言葉が自分の身に染みてきました。そしてその気持ちを分かち合える場があると聞いて更に驚きました。わたしはがんカフェに３回程参加させて頂き、樋野先生ご本人にもお会いしお話を聞かせて頂きました。

樋野先生に「病気は人を選びません」とはっきり言われ納得。「解決できないことがあっても、解消することはできるかもしれない」と言われ更に納得。昨年末、乳がんが身体中に再発転移し抗がん剤で耐えてる今。何があってもおかしくない私に今できることは何だろうと毎日考えます。その度にその言葉を思い浮かべます。

がんカフェには様々な方がいらっしゃいます。でも何を話してもいいんです。そして何も話さなくてもいいんです。色んな状況で繋がる方が集まる一期一会。そういう場だと思い、今のわたしにはがんカフェが大事になっていると思います。スタッフの方々がとても暖かく準備して頂いていることも心が落ちつきます。

そして、こんな身体の私なのに、絶えず「田中さん」と声をかけてくれるお友達のお母さんにも感謝でいっぱいなのです。できる限り前を向いて生きたいと思って私はがんカフェに参加させて頂いています。とにかくお会いした皆様に感謝でいっぱいな場所です。

「気持ちを受け入れ、寄り添う」　のぞみー

私はがんカフェにスタッフとして参加させていただいています。スタッフと言っても樋野先生のような処方箋となることばも持っていませんし、当事者でないので助言出来る訳でもなく、ただただお話を伺わせていただいています。

私は昨年からベビーシッターの仕事を始めました。幼児教育の資格を持っていないので、研修を受けました。その研修で一番心に残ったのは、「まず子供の気持ちを受け入れ、寄り添う」と言う事でした。

２人の子育てをして、２人とももう大学生になりましたが、この言葉を実践出来ていなかったなぁ。と反省しました。

家事や時間や、人の評価に考えが行き、これが子供の為だと理由付けして、子供達の要求より自分の考えを優先させていたなと思わされました。

がんカフェは正に「その人の気持ちを受け入れ、寄り添う」場だな。と思います。毎回メンバーが違っても、初めて会われた方々が各々のお話を親身に聞いて寄り添って下さる姿に、胸が熱くなります。あの方がこの方の気持ちを受け入れ、あの話をして下さって本当によかった！と毎回感謝し、参加させていただけてよかったなぁ。と思います。

私も子育てでは実践出来ませんでしたが、誰かにとってのそんな存在になれたらと思います。

編集後記　さくら（かえる）

今年も桜の季節がやってきました。ニュースレター vol 9 は、私が毎回通うあるカフェで出会ったお二人の方が原稿を寄せて下さいました。田中さんが初めてカフェに参加された時のことをよく覚えています。3 回お会いした中で、お体は一番お辛い状況にあるかもしれませんが、前回お会いした田中さんは、それまでで一番輝いておられました。その田中さんに、そして私たち参加者にいつも寄り添ってくださるのぞみーさん、ありがとうございます。新しいお仕事も頑張って下さい！私もこの春で最初のがんから２５年たちました。カフェでたくさんの方に出会い、対話を通して力を分け合いながら、今年も桜の季節を迎えられたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

編集：岡倉天心記念　がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」　山本　ひろみ　gantetu_sakura@yahoo.co.jp　https://sugamo-sakura.com/

後援：一般社団法人がん哲学外来